

編集後記

今年の冬は例年になく暖冬で積雪も少なく推移しています。この季節になると心配なのがインフルエンザの流行ですが、昨年12月に中国の湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス関連肺炎が世界各国に拡がりつつあり、経済への影響も懸念される事態となっています。

コロナウイルスといえば、2002年に中国広東省で発生したSARS（重症急性呼吸器症候群）や2012年にサウジアラビアで発生したMERS（中東呼吸器症候群）が記憶に新しいところです。そもそも、コロナウイルス自体は目新しいものではなく、ヒトは日常的に4種類のコロナウイルスに感染していて、風邪の10～15%程度を占めるようです。このウイルスは、直径約100nmの球形で、表面に突起があって形態が王冠“crown”に似ていることからギリシャ語での“corona”と名付けられました。今回の新型コロナウイルスは、致死率はそれほど高くないのですが、ようやくウイルスが単離された段階でワクチンもなく、陰性と判定された後に発症する例もあるなど、対策が難しい面もあり、知見の蓄積が急務となっています。

このような状況の中で、私の職場のアドレス宛てに某都道府県の保健所の名前で、1通のメールが届きました。新型コロナウイルスに対する予防対策の周知という触れ込みで、Word文書が添付されています。文面に誤字もあり、怪しいと思ってネットで検索したところ、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）などが注意を呼び掛けていました。メールに添付されたWord文書には不正なマクロが含まれていて、不用意にこれを開くとマルウェア「Emotet」に感染する恐れがあるとのこと。昨年の12月には「賞与支払」がらみで急増し、今年の1月末から新型コロナウイルス騒動に便乗して不審メールを拡散させている模様です。とにかく、今の時代、IT技術の恩恵に浴する一方で、常に冷静に対処することが求められていることを再認識させられた次第です。

我が家の菜園では、前年に収穫したガラス豆を昨年の12月に播種しました。遅播きだったので心配したのですが無事に萌芽し、なんとか冬を越せそうです。気象庁が令和2年1月24日に発表した3ヶ月予報によれば、2月～4月は日本付近で偏西風が北に蛇行することから全国的に寒気の影響が弱く、気温は高めで推移し、降水量や降雪量は少なめようです。とはいえ、これからの季節は気象変動が大きいですから、天候の推移に目を配りながら豆類など農作物の栽培準備を進めていただきたいと思います。

(矢野 哲男)

発行

公益財団法人 日本豆類協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル4F TEL：03-5570-0071
FAX：03-5570-0074

豆 類 時 報

No. 98
2020年3月20日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル3F TEL：03-3584-6845
FAX：03-3584-1757
